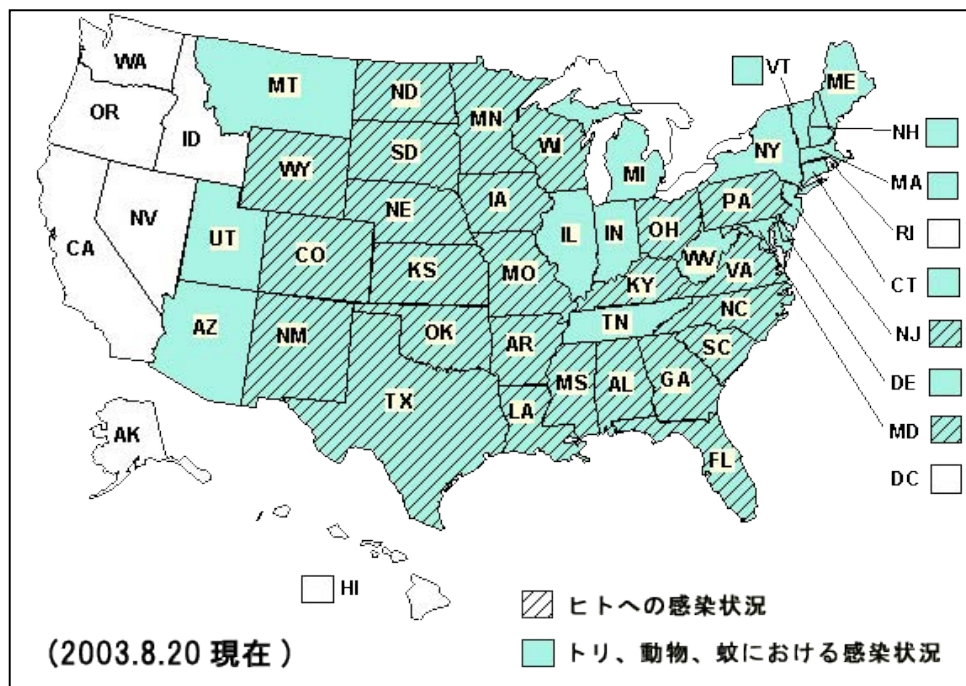


トピックス

米国におけるウエストナイル熱の流行と我が国での対策

【平成 15 年 8 月 20 日現在】

昨年アメリカ合衆国で大流行（4,156 人の感染者と 284 人の死者）したウエストナイル熱（脳炎）がこの夏も昨年を越す勢いで流行し始めたとの報道が現地から寄せられています。また、6 月には、我が国に生息する蚊のほとんど（14 種類程度のうち 11 種類）がウエストナイルウイルスを感染させることができるとの厚生労働科学研究報告がなされ、我が国でウエストナイル熱（脳炎）が流行する可能性も指摘されています。



1999 年にニューヨークで北米として始めて発生したウエストナイル熱（脳炎）は、2001 年には南部のフロリダ州まで南下し、2002 年にはウイルスに感染したトリの移動に伴い、五大湖周辺のイリノイ州、ミシガン州、オハイオ州やインディアナ州で数百人規模の感染者が報告されただけでなく、感染者発生地域はさらに西進し、コロラド州やテキサス州、それに、モンタナ州、ワイオミング州といった西部の州からも感染者の報告がなされました。

今年は、昨年及び一昨年に多数の患者が発生した五大湖周辺及び東部の州からの感染者の報告数は激減していますが、昨年までは感染者が全く報告されていなかったニューメキシコ州を含め西部の州からの報告が現在までのところは増加しています。そのうち感染者が多数報告されているのは 8 月 20 日現在コロラド州が最多で 263 名の感染者と 6 名の死亡者、次いでサウスダコタ州の 117 名（死者ゼロ）、ネブラスカ州の 99 名（死者 3）、テキサス州の 70 名（死者 2 名）などとなっています。

しかしながら 4 年前に初めてアメリカでの流行が発生したニューヨーク市（感染者ゼロ）やフロリダ州（患者 4 名、死者ゼロ）などでは今年も昨年に引き続き発生数は少なくなっています。全体では、29 の州でヒトへの感染が確認され、8 月 20 日現在で 715 名の感染者（検査陽性者）と 14 名の死亡者が報告されています

一方、日本からの観光客が多いカリフォルニア州内での感染は今のところ報告されていません。しかしながら、現地専門家はカリフォルニア州でヒトのウエストナイル熱（脳炎）発生も時間の問題との見解を述べていることから、いずれにしても蚊に刺されないように注意することが必要です。

合衆国における現時点での感染者数は昨年同時期（250～300 名）を上回っています。昨年は、8 月中旬の感染者数が 200 名程度であったものが、8 月末には 500 名に、9 月末には 2,000 名を越すまでに流行が拡大したことから、今年も同様なペースで流行が拡大すると仮定すると、今年も昨年以上の大流行が起こる可能性も十分考えられます。

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎）は、ウイルスに感染したカラスなどの鳥や馬などを刺してウイルスを含む血液を吸血した蚊に刺されることによって感染します（ウイルスに感染したヒトからヒトへの感染については、ヒトの末梢血にはウイルスが大量に出現することが少ないことから起こりにくいと考えられています）。

しかしながら、蚊に刺されたとしても、多く（80%程度）は感染しても症状の出ない不顕性感染の形をとり、次に症状の比較的軽い通常型がみられ、重い症状が出現するのは感染を受けた人の 1%未満とされています。

通常型は潜伏期が 3～15 日程度で、急激な発熱、頭痛、背部痛、めまい、発汗、約半数の症例で出現するとされる紅い小丘疹が密生した猩紅熱様発疹、それに、リンパ腫大などです。3～7 日で解熱し、短期間で回復します。

重い症状が現れる脳炎型（頭痛、高熱、頸部硬直、感覚障害、昏睡、戦慄、麻痺など）は、高齢者や免疫機能の低下した人に多く、死亡率は 3～15%とされています。

我が国では私たちの身の周りにはほとんどの蚊が（14 種類ほどの蚊のうち、ヒト及びトリの両方を刺す性質を持つ 11 種類）ウエストナイルウイルスを媒介する可能性があると考えられています。

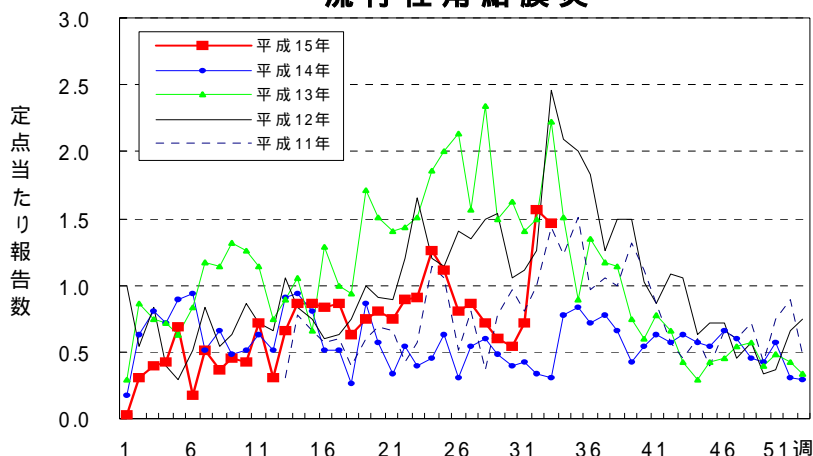
これらの蚊に対する対策として、6 月 18 日付けでウエストナイル熱の侵入に備えた地域における対策をまとめた厚生労働科学研究の結果が報告されました。その中で、媒介蚊を可能な限り減らすため、幼虫発生源の水溜まり等を無くすこと、殺虫剤を用いて蚊を殺すこと、網戸の設置や、屋外では皮膚に忌避剤を塗ることを提言しています。

また、昨年の北米におけるウエストナイル熱の大流行を受け、我が国では昨年 10 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行規則の一部改正がなされ、ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）は 4 類感染症に指定され、診断した医師は都道府県知事に届け出なければならないことになりました。また、流行予測のために死亡カラス情報の収集も昨年 12 月から実施されています。

当衛生研究所でも、昨年度に全国の地方衛生研究所と国立感染症研究所（感染研）が連携して立ち上げたウエストナイルウイルスの遺伝子の検査体制に加え、感染研がアメリカ合衆国 CDC（米国疾病対策センター）から提供を受けた患者血清の一部の提供と同時に検査法の研修も受け、現在、血清学的検査法についてもその検査体制を整えつつあります。

流行状況

流行性角結膜炎

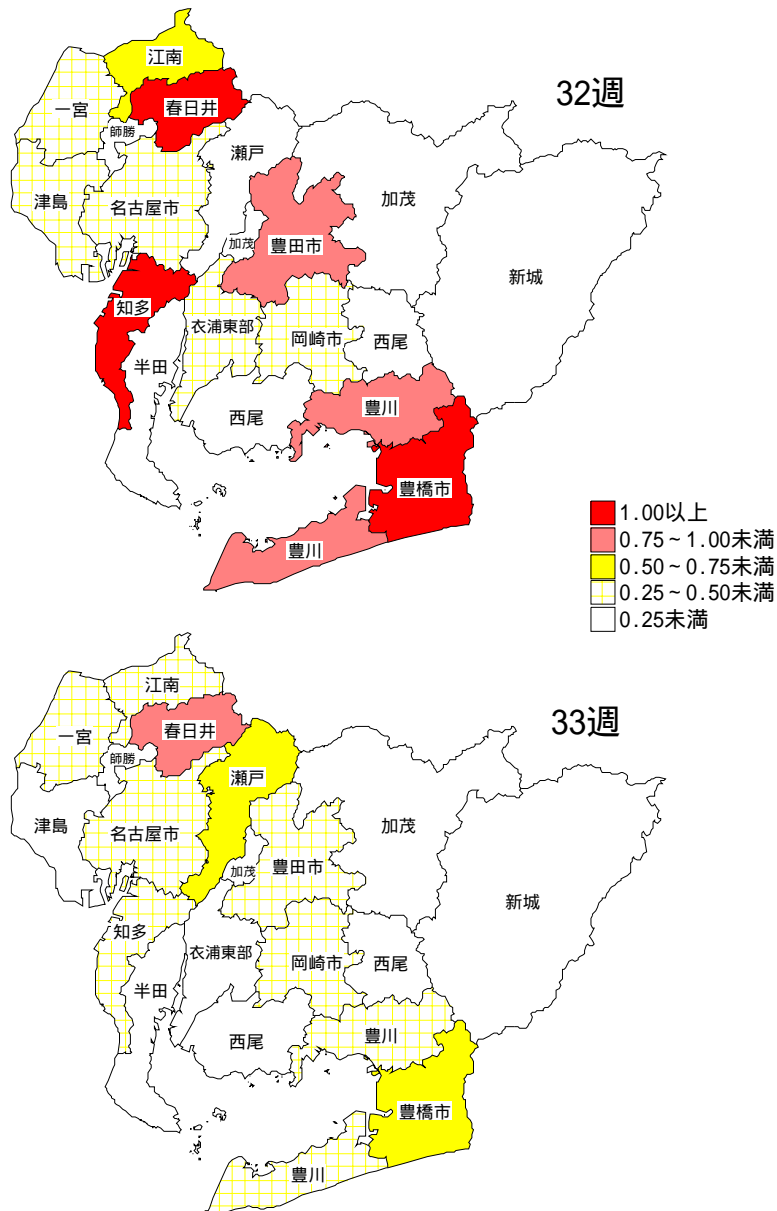


疾患名	前週	今週	備考
<u>手足口病</u>	2.7 	1.6 	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>流行性角結膜炎</u>	1.6 	1.5 	眼結膜・角膜の炎症を主症状とするアデノウイルス感染症 (重症例では視力障害を残す)
<u>ヘルパンギーナ</u>	1.9 	1.2 	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>咽頭結膜熱</u>	0.48 	0.34 	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>麻疹(はしか)</u>	0.05 	0.03 	予防にはワクチンが有効
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.38 	0.23 	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 2 定点からコメントでの患者発生報告あり
<u>無菌性髄膜炎</u>	0.08 	- 	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと 1 定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
横ばい	増加	減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	33週	定点 当たり	32週	定点 当たり		33週	定点 当たり	32週	定点 当たり
名古屋市	25	0.36	27	0.39	岡崎市	3	0.43	2	0.29
瀬戸	5	0.56	1	0.11	衣浦東部	2	0.18	5	0.45
津島	0	0.00	3	0.43	西尾	1	0.20	1	0.20
師勝	0	0.00	0	0.00	豊田市	2	0.25	6	0.75
一宮	4	0.33	4	0.33	加茂	0	0.00	0	0.00
春日井	8	0.89	11	1.22	豊橋市	5	0.63	8	1.00
江南	2	0.33	4	0.67	豊川	3	0.38	6	0.75
半田	0	0.00	1	0.17	新城	0	0.00	0	0.00
知多	2	0.29	7	1.00					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 11ヵ月女
病原性大腸菌O6 7歳女
病原性大腸菌O18 1歳男
アデノウイルス感染症増加中です。

【尾西市 城後小児科】

エロモナス ソブリア*1 6歳女

【犬山市 武内医院】

*1 エロモナス ソブリア：急性の胃腸炎を起こす、食中毒の原因菌
手足口病のみが目立ちます。
アデノ感染症は減少しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

10歳男 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

まだマイコプラズマ感染症がみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナ少し落ち着いたようです。

マイコプラズマ感染症多くみられます。

その他、溶連菌感染症、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発疹、少しづつあります。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

4歳男 サルモネラ腸炎（サルモネラO4）

6歳女 サルモネラ腸炎（姉弟例です）

【尾張旭市 旭労災病院】

手足口病、ヘルパンギーナ、水痘つづいています。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

8歳男 ムンプスがありました。ワクチン未接種です。

【春日井市 かちがわ北病院】

ヘルパンギーナ多し

手足口病減少

【小牧市 小牧市民病院】

無菌性髄膜炎2例ありました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

アデノ咽頭炎 5歳男

【東海市 東海市民病院】

手足口病がまだでています。今年2回目の患者もいました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

4歳男 帯状疱疹 【豊田市 すくすくこどもクリニック】
 2歳男 カンピロバクター (+) 【岡崎市 花田こどもクリニック】
 1歳男 カンピロバクター 【岡崎市 にいのみ小児科】
 5歳女 サルモネラO9 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
 診療回数が少なく特にありません。
 【西尾市 やすい小児科】
 手足口病、ヘルパンギーナは減少してきました。
 【三好町 三好町民病院】

東三河地区

マイコプラズマ肺炎2名 5歳男、8歳女 【豊橋市 野村小児科】
 3歳 病原大腸菌O25及びO1あり 回復に1週間を要す 【田原市 かわせ小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	岡崎市	6	男	8/6	8/6	8/12	O157 VT1(+) VT2(+)	
*	衣浦東部	20	女	3/19	3/19	3/26	O157 VT(+)	13週分 追加報告
*	衣浦東部	2	女	7/28	8/4	8/10	O26 VT1(+)	32週分 追加報告

コレラ

1	一宮	55	男	8/12	8/13	8/17		海外渡航 歴無し
---	----	----	---	------	------	------	--	-------------

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

アメーバ赤痢 3例 (推定感染地域: 国内 3例)

第31週(15年7月28日~8月3日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微減したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また、過去10年間の同時期と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(2.5)、長野県(1.9)、兵庫県(1.2)、高知県(1.2)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は8週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また、過去10年間の同時期と比較して27週以降最高の値となっている。都道府県別では山形県(1.5)、鳥取県(1.4)、山口県(1.4)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では鳥取県(5.8)、宮崎県(5.2)、福井県(4.9)が多い。手足口病の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山口県(10.9)、愛媛県(9.2)、広島県(8.2)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少して0.19で、過去4年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では愛知県(0.9)、秋田県(0.7)、三重県(0.7)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は前週まで3週連続で減少していたが、再び増加し、都道府県別では北海道(1.0)、宮城県(1.0)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少したが、都道府県別では宮城県(9.1)、山形県(8.5)が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加して0.20で、都道府県別では奈良県(1.3)、大阪府(1.1)、高知県(1.0)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第33週 (平成15年8月11日～8月17日)

愛知県衛生研究所

		定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	0	62	61	183	133	293	28	111	3	2	211	5	136	1	51	0	0	0	3	0	0
総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	0	37	42	126	94	243	24	81	2	0	167	3	106	1	40	0	0	0	3	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1		25	19	57	39	50	4	30	1	2	44	2	30		11						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1		5	7	9	3	10	1	10			11		8								
海部津島	津島	7	7	2	2	1			2	5	3	9	1	1			2		5	1	6						
尾張中部	師勝	4	4	1	1				3		5						6		6								
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		4		35	7	16	1	2	1		9		1		1						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1		8	3	8	17	23	7	15			29		9		9						
	江南	6	6	1	2			2		14	5	29	1	6			12		4		5						
知多半島	半田	6	6	1	2	1				12	4	7	1	7			7		3								
	知多	7	7	2	2			2	6	2	6	20		6			10		5		1						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		3		3	11	22	7	12	1		10		27		9						
	衣浦東部	11	11	2	4	1		2	12	3	18	41	2	6			5	2	25		2						
	西尾	5	5	1	2	1		1		5		1	1	1					1		4						
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1		2	3	2	5	11	2	8			20		2								
	加茂	3	3		1					5		4					1		3								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1		5	4	8		16		3			24	1			2				3		
	豊川	9	8	1	2	1		3	2	15	7	25		3			20		5		1						
東三河北部	新城	2	2			1					3	9		1			1		2								

愛知県感染症情報

2003年第1週～第33週(平成14年12月30日～平成15年8月17日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱*	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	感染性胃腸炎*	水痘	手足口病*	伝染性紅斑	突発性発疹*	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ*	麻疹	流行性耳下腺炎*	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	47,885	1,187	6,640	25,816	11,003	9,285	1,304	4,217	48	50	5,656	137	3,813	30	813	1	5	9	127	0	4
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	38,580	859	4,805	17,690	8,815	7,923	1,043	3,384	38	31	4,014	104	3,047	25	592	1	5	8	123	0	4
名古屋市	70	70	11	14	1	9,305	328	1,835	8,126	2,188	1,362	261	833	10	19	1,642	33	766	5	221			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	2,755	60	771	1,071	411	174	24	195	4	1	446	6	344	1	35						
海部津島	津島	7	7	2	2	1,341	46	89	1,235	475	855	57	167	1		218	2	128	1	24				10		
尾張中部	師勝	4	4	1	1	1,378	10	115	1,067	131	152	19	84		5	367	1	115		10						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	2,712	30	347	2,205	715	732	121	387	6	1	281	2	219	1	20			1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	4,291	75	377	1,184	580	655	146	289	3	4	409	7	275	1	53	1	2	2			1
	江南	6	6	1	2	1,520	38	296	1,666	513	658	83	246	1	1	183		95		37						
知多半島	半田	6	6	1	2	1,915	17	170	652	200	98	22	185		1	142	1	194		13		1		10		2
	知多	7	7	2	2	2,364	99	436	1,179	605	298	58	246		1	291	27	87	2	30						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	4,159	30	296	201	899	502	117	405	7		299	1	459	3	57						
	衣浦東部	11	11	2	4	5,878	56	387	1,163	1,093	829	96	302	4	1	317	13	560		81			2	7		
	西尾	5	5	1	2	1,190	13	220	621	420	298	77	139	1	2	124	10	140		43			1	6		1
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	2,409	73	218	1,160	788	359	51	203	8	11	284	8	235	7	89			2	33		
	加茂	3	3		1	489	15	200	396	135	118	9	39		3	73		42								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	3,088	208	562	2,396	813	1,069	91	285	1		275	16	37	7	60		2		29		
	豊川	9	8	1	2	2,839	89	319	1,494	986	1,088	72	193	2		303	7	96	2	40				28		
東三河北部	新城	2	2		1	252		2		51	38		19			2	3	21								

* 名古屋市及び江南保健所(感染性胃腸炎1例)より32週分の追加報告あり

32週報告の累計訂正

愛知県感染症情報

2003年第1週～第33週(平成14年12月30日～平成15年8月17日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎*	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
計	38,580	859	4,805	17,690	8,815	7,923	1,043	3,384	38	31	4,014	104	3,047	25	592	1	5	8	123	0	4
～6ヶ月	518	5	10	200	224	68	6	281	6		62	2	2		2						
～12ヶ月	1,096	26	24	1,122	526	378	39	2,060	9	2	364	21	19		12						
0歳																1		1			
1歳	3,227	141	118	2,736	1,572	1,405	61	962	6	4	995	23	136		18			11			
2歳	3,245	132	276	2,026	1,484	1,380	86	65	3	2	741	7	225	1	15			12			
3歳	3,321	135	600	1,997	1,637	1,517	110	6	3	1	718	6	469	2	19			12			
4歳	3,516	123	901	1,766	1,567	1,343	144	1	4	3	491	6	618		11			9			
5歳	2,262	116	911	1,369	956	886	154	1	2	5	341	3	604	1	16						
6歳	1,825	57	697	1,008	393	412	148	4			132	7	360		3						
7歳	1,466	43	394	784	158	182	92		1	4	60	2	201		4						
8歳	1,304	33	282	638	106	120	82	3	1	3	28	3	143	1	6						
9歳	1,336	13	158	499	57	55	36			1	30	2	75		4						
5歳～9歳																	2	30			
10歳～14歳	4,859	13	212	1,129	86	77	62	1	2	2	23	16	121	1	24			20			
15歳～19歳	1,573	3	19	307	8	7	1				6	3	11		27		1	3			
20歳～		19	203	2,109	41	93	22		1	4	23	3	63		1	4					
20歳～29歳	2,768													9	93		2	7		2	
30歳～39歳	3,054													1	125		1	7		1	
40歳～49歳	1,182													2	60		2	4		1	
50歳～59歳	892													3	76			1			
60歳～69歳	597													1	43			2			
70歳～														3	34						
70歳～79歳	352																	3			
80歳以上	187																	1			

* 江南保健所より32週分の追加報告あり

32週報告の累計訂正